白い花弁の流れる先　38

川鍋さく

白桃

産地直送ギフトサイトで
憧れの箱詰めを初めて買った
《わけあり品　福島県産白桃　約２kg》
あなたの小さな夢を一つ
今年は叶えてあげられる
予約注文のボタンを押して
ふたりで子どもみたいにはしゃいだ

箱いっぱいの美しい桃が届いた夏の日
あなたは病院のベッドの上に居て
窓の外には
何が見えていたのだろう

「最初の一週間だけ入院して、その後は通院での投薬になります。」

　一週間なら桃もまだ大丈夫だね
　退院したら一緒に食べよう

冷蔵庫の中で
桃のまるまるとした姿が今日も美しく
一週間が、もう一週間になり

　先に食べてていいよ
　腐らせちゃったらもったいないもん

その日から
一日一玉ずつ
ひとりで桃を食べた
もう一週間が、さらにもう一週間になり

冷蔵庫から取り出す桃が
一日毎に柔らかくなっていく
さらにもう一週間が、「本人の体力次第」になり

さいごまで残しておいた二玉も
とうとう半分茶色くなってしまったので
ひとりで食べた

ひと夏に一度だけ
スーパーで桃を買う
《福島県産白桃　２玉》
冷蔵庫に入れる前に
仏前に供える
まるまると美しく並ぶ桃
今年も
茶色くなるまで食べずにいた
それでも

　腐らせちゃったらもったいないもん

だけど
あの夏の桃も
せめてさいごの二玉は
腐らせてしまえばよかった

＊＊ 川鍋のぶつぶつ独り言 ＊＊
猛暑酷暑はいつまでも尾を引きますが、「夏」はいつもあっという間に過ぎてしまいます。子どもの頃は夏休みがあって、おじいちゃんおばあちゃんの家に遊びに行って、海やプールやお祭りや花火…楽しみに思えるイベントが詰まっているからでしょうか。楽しみに思えるイベントを実際に楽しめた年も、楽しみたいと憧れながら指をくわえて遠くから眺めることしかできなかった年も、なぜか同じように、「夏」はほんのひと

時。大人になった今でも、私にとって「夏」はそんな不思議で特別な季節です。どんなふうに過ごした夏も、そのひと夏の匂いが脳裏にいつまでも漂っています。